

私の碁

坂口安吾

青空文庫

塩入三段と岩谷社長とフリリときて挑戦するのを迎えて、僕が塩入三段に勝った。これを雑誌にのせるといふ、まことに醜態で、恥を天下にさらす、あさましい話である。

私があんまり布石にへたくソで、二十目ちかいダンゴ石が出来上った始末だから、塩入三段も驚いた様子で、あんまり勝つちや気の毒だと気を許したところをツケこんで向う脛を払ったような碁だから、私はもとより勝った気はしていないのである。

今度やっては、もはや五目じゃ、とても勝てないだろう。私は専門棋士とやると、たいがい第一局は勝つことになっている。

つまり私の布石がデタラメで、序盤にトンマな石ばかり打つか

ら、みんな気の毒がつて気をゆるめる。すると唐突に向う脛を蹴とばす。いつも、たいがいそのデンで、第一局をモノにする。第二局から碁の性格を見破られるから、気の毒がつたり気をゆるめてくれなくなり、私は結局、もう一目、よけい置かないと勝負にならない結末となる習いなのである。

私も七八年前は然るべき先生に教えてもらったこともあるのだが、けれども、戦争中の約三年間、ほかにすることがなくなつて、毎日碁会所へ入りびたり、僕のすむ蒲田というところは乱戦の勇士ぞろいに行儀の悪い力持ちの碁打ちばかりそろつたところで、軍需会社の職工に一級二級ぐらいの打ち手は相当いるが、腕ツ節専門の立廻り派ばかり、そういう人々と三年間立廻りに耽っていた

から、僕はもう布石も序盤もない。人の石を殺しに行くことしか知らない行儀の悪い碁になってしまった。むかしは、もうチョツト、上品であつた。

僕はこの春、文人囲碁で一日碁を打つたことがあるほかにはこのまる一年半、ゆつくりした気持ちで石を握つたことはないのである。

尤もこの春ひどく疲れて豊島与志雄さんを訪ねて十番碁をやり常先に打ちこまれ、国府津こうづで泥酔して尾崎一雄とやって互先に打ちこまれ、勝つたのは村松梢風さんにだけ。全然意気があがらなくなつてしまった。

むかしは碁の素性もいくらか良かったけれども、腕ツ節もたし

かにもつと強かった筈で、ちかごろの弱腕、まことに残念千万である。時々、頭を休める一二時間に碁石を握れるような環境があるといいが、ともかく、ボツボツ暇々に練習をつんで、もうチョット恥をかかずにすむような碁力を養いたいと思っっている。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 07」筑摩書房

1998（平成10）年8月20日初版第1刷発行

底本の親本：「定本坂口安吾全集 第七卷」冬樹社

1967（昭和42）年11月

初出：「囲碁春秋 第二卷第一二号」

1948（昭和23）年12月1日発行

入力：tatsuki

校正：砂場清隆

2008年3月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

私の碁

坂口安吾

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>